

日四十月二



定額 一冊五錢 一月一元五角 半年七元五角 一年十四元
 廣告 五線十二字 第一行五錢 五折
 日曜 祭日の翌日 休刊
 印刷所 常磐新報印刷局 電話六二〇
 發行所 常磐新報印刷局 電話六二〇
 印刷所 常磐新報印刷局 電話六二〇

法然と親らん

真織 雲山

法然上人の繪傳を一貫して拜し得る色彩は高雅なる平民佛教といふことであり何としても本朝淨土門の元祖といふ偉大さであつて、月輪御殿における上人の静けく輝かしき風格は關白兼實の歸衣によつて一層ふかく背景づけられる、蛇身成佛淨土三尊の御感見明遍僧都天王寺西門の靈夢など餘人にあつて奇蹟といはゞ言はれる傳説も上人にあつてはその高雅と幽玄さとを裏づけるにふさはしい畫題である。

しかし何といつても安樂住蓮の事件に坐して南海に配流せられたまふ意外の出来事は上人の御一代における大きな色彩である、若しあの一事件がなかつたとしたならば上人の御一代は極めて淋しいものであつたらう總じてその當時はそれが悲痛な禍ひであるにしてもその人一代の史實として後にこれを眺めるとき、それは輝かしい花紋として多くの意味を物語る、念佛門そのものは王朝佛教の傳統的な型を破つた平民的民衆的なものであつたけれどその色彩は何處までも粗野の反對におかれる高雅な氣品を

保つてゐる、恐らくは上人の大きな人格の發露であつたであらう。その上人は南海の配流によつて鐵石の如き信仰を表現され併せて邊鄙の群類を度せんとの御素志をも達せられた。

親鸞聖人の御一代はどこまでも民衆的であり偉大なる凡人としての足跡を大地の上に即せられた、師上人が南海の謫所、神部、勝尾の化導を別として概ね洛中にあつて京都を中心に勸化せられたのに反し親鸞聖人はその晩年に歸洛して著述に専念せられる外は雪深き北越の配所を初めとして常州稻田を中心に足跡はあまねく關東より遠く東北に延び東海、東山を巡錫せられたその教化は殆んど當時の東日本を風靡してゐるのも面白き對照である。

ノート

藥を煎じるときに蓋をとつてはいけない故に吹きこぼれぬ様大ぶりの土瓶を用ふ金屋製のは禁物だ

念佛不捨の御信仰は何物の妥協性をも許さぬ堅固なるものであつたけれどもその廣量と寛大さとは有らゆるものを攝取し抱擁せずにはおこな偉大な慈門の開顯であつて、やがてそれが念佛間の生命であつた。

二明日の献立

【朝】すまし汁：わかめうど

【晝】煎鳥：かしは、こんにやく、ごぼう

【晚】薄あんかけ：甘藷薄くづけ

山門の強訴、念佛の停止南海の流謫など史實として如何に波瀾に富んでゐたにせよ、法然上人の風格はそれを繪巻にまとめるときまことに高雅な偉大さに満ちたものであつたのに引きかへ

等の誇りをも示さず何處までも凡夫としてのたしかな歩みを大地の上に印してゆかれたその御生涯こそは後につゞく多くの末代凡夫がその足跡を踏み得る所以であつて今日現に東西木願たのである。(完)

御贈答に!!! 漆器を!!! 記念品に!!!!!! 諸景品に!!!!!!

専門の(共)は 誠實勉強 親切第一 在庫豊富

是非御用命を ドコヨリモ、ヨイシナラ、ドコヨリモ、ヤスクウ、又ルモノミセ 平町三丁目北裏(元郵便局裏通り) 各國産漆器 専門卸小賣 (共) 漆器店 店員募集 十三才位 小 店員 三十才位 外 交 員

御料理 八千代

平町田町 電話三七五番

夜九時まで

御預り倉出し致します

平三丁目通り

旭屋一六銀行

電話四二五番

中村齒科醫院

平町 鍛冶町七

外科 醫學博士 渡部 義夫
 小兒科 女 醫 渡部 きい子
 内科 女 醫 渡部 きい子
 平町田町大通り(電話二七七番)
 入院應需 渡部 外科

金銀高價買入

平町二丁目(三幸堂跡)

根本時計店 電話六〇七番

たこの素景品付 賣出し期迫る

經濟で美味なだしの素を未だ御使用なき御料理店飲食店様及御家庭へ是非おす、めします。御客様も御家族様もきつと御満足いたします。

販賣員募集

新川町新藤屋隣

京一醬油直賣所



玉屋洋品店 平町田町通 電話六五六番

亂打問題の張本人

挨拶抜きで任地へ

警中に突然飛來した電報

同僚の心配を尻目に掛て

生徒亂打の張本人で精神鑑定の要ありとさへ云はれた警中教諭横井勝氏は問題惹起と共に父病氣の故を以つて暫く

欠勤し 其後問題の治

ると共に平然として出勤し始めたので不謹慎にも程があると同窓會員がまた騒ぎ出し危く問題が再燃しかつたので橋本校長の勸告に依り欠席中の處

昨日付を以つて突然

同教諭より警中宛に左の電報
メイレイハイジユ、シユ
ウニンイソグ、カヘレヌ

不具兒童に 特殊な教育

平第二小學校で

平第二小學校にては生徒中の不具兒童を養護して特殊の教育を施す事となり準備中であるが其の数は尙俥病二名、關接炎、火傷、筋肉炎十三名、手の不自由なる者九名、半身不隨二名、計二十六にて之等氣の毒な兒童に對し別製の机、椅子等

優漁旗を けふ授與

内務部長臨席

既報石城郡江名町漁船清勝丸が昨年度に於いて縣下の魚獲を揚げた優漁旗授與式は本日午後二時より江名漁業組合事務所にて舉行水産

第四校新設の 意向を聴取

學務委員招集

平町役場では来る十六日午後一時より會議室に於いて學務委員會を開會する筈であるが當日は青沼町長が目下物議を起して居る第四小學校新設案に對する委員會の意向を聴取するものと見

不動産取得税は 平町が最も多額

既報昨年八月より未整理であつた不動産取得税は平縣稅務出張所が調査中の處此程終了税總額は五千八百五十六圓十一錢(八員千百九

平町人輩

- △出生 生
- △舊城跡三 佐藤四郎氏長
- △三丁目二 永山小平氏八
- △茨城縣多賀郡日立町字宮田青戸稔氏(三三)八幡小路三八川村トク(二二)
- △愛知縣名古屋市西區則武町岡本信吉氏(四〇)胡摩澤一二宮島直美(四九)
- △大工町一九 石山マチ(六七)

目丁二町平

三井タクシ

番五八六話電

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町 電話一〇七

吸入用酸素

純度 99%

モノサシ
マラス
ハカリ

体溫器
寒暖計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局

電話四〇番

毎度御ひいき
有難ふ御座ります

うなぎの御用命は
うなぎ奴

平町田町(電話二二番)

胃腸病藥の王座を占むる純漢法藥

松前 家傳

ホントに北海道で出來た靈藥が着荷致しました。今迄は福島市内で製藥したので兎角の批評がありました。服用しなくては其の眞價が判りませんから、皆様見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて下さい。見本品でも二日間飲まれますから胃腸病に苦しむ方、惱病、心臓、痔疾の方は是非御試して下さい。クセにならず根治致します。小兒用の靈効散も出來ました。

定價
試用分(八日分) 輕症用(廿日分)
五十錢
重症用(四十五日) 壹圓

販賣部 地方代理店
靈効散

阿康藥舖

平町古鍛冶町縣社ノ下
電話四四番

殺人強盗の嫌疑晴れ

青天白日の身

何處でも雇手がな

木挽職人平署に泣き込む

既報新潟縣の殺人強盗犯人と目され平署に檢舉された新潟縣北蒲原郡小幡村字浦野生れ木挽職人谷川勘次(四)は其後平署より新潟縣警察部に護送され新潟縣に於て嚴重取調の結果意外にも同人は同事件の起つた當時は平町に居住して居た事が明らかとなつたので犯人

は他に在るものとして放免の身となり去る十一日再び平町に舞ひ戻つたが一時殺人犯と傳へられただけに部下の材木店では怖れを抱き就業せしめないで路頭に窮した同人は本日平署に出頭世間の誤解をいとて貰ひ度いと願出た

現役の軍人にも

優る勇敢さ

平青訓の査閲に

志賀君激賞さる

十二日の平青年訓練所軍事教練査閲に際し四丁目丸市屋魚店の息志賀榮一君が渡邊三男薄葉孝一の兩君と共に折柄の降雪中を泥塗れとなり苦心慘憺斥候の任務を勇敢に遂行したので査閲官福島聯隊區司令部付中村中佐から現役の軍人にも優る行為で眞に他の模範であると激賞された

磐崎夜間演習 石城郡磐崎村青年訓練所生五十餘名は本日午後五時より明

子供の弄火から

積藁の火事頻發

親達の御注意肝要

石城郡高久村大字下高久字山ク内八七片喜喜久二方附近の藁ボツチより十一日午前十時頃發火正に大事に至らんとしたのを家人が発見漸く消止めたが原因は同字岡部甚平長男(八)及び山田高義三男春雄(六)假名の少年が自宅よりマツチを持出し暖をとらんとして点火した爲めであると同日午後一時頃神谷村大字鹽字室前一中野安吉方でも自宅前の藁百束を焼失したが是れも安吉四男五郎(六)のマツチの悪戯であると

カフエーで

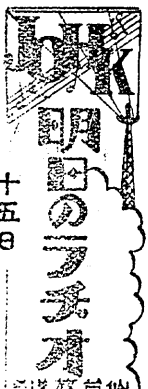
亂闘を演ず

平町三丁目カフエー黒猫方へ昨十三日午後六時頃泥酔して立寄つた石城郡内郷村字宮古物商流山敏治(三)及び細谷鎌次(三)の兩名は來客に難癖をつけるので料理人千葉縣吾津郡港町生れ山

左官工友會

發會式舉行

平町左官業者は去る十一日午後六時より住吉屋本店に



今晚は北西の風晴れ曇り半し明日は北西の風曇り小雪模様

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間 童謡と唱歌
後七、三〇 講演「市町村の合同」法學博士下村宏
後八、〇〇 落語「不忍の

早稲一柳亭芝樂
後八、三〇 小唄 胡紋外
後八、五〇 義太夫「義經千本櫻」浄るり竹本東廣
三味線豊澤仙平
後九、三〇 満洲より
後九、四〇 全國ニュース
氣象通報 番組豫告

明日の部

前九、一〇 料理献立「みかんジュレ」宇多繁野
前一〇、三〇 家庭講座「お釋迦様お涅槃の話」清野學道
後〇、〇五 浪花節「物真似」浮世亭雪心坊
後二、〇〇 婦人講座「歌の正しさうたひ方」醫學博士岡田和一郎

後五、三五 受験講座 國語 内海弘藏
後六、〇〇 子供の時間 お話「童謡の作り方」味ひ方一西條八十
後七、三〇 講演「歌人としての西行」福島高等學校教授北島霞江
後八、〇〇 歌澤特別演奏「相生」歌澤實佐久良外
後八、三〇 ラヂオ風景「スキー」五徳田濱友田恭助外

鎌田火防役員

平町鎌田町火防組合では此程組合幹部の改選を行つた結果組合長には佐藤孝次郎氏、副組合長は山崎信義氏、伍長には清野久一氏外十七名が當選した

合戸青年修養

石城郡合戸村青年團では去る十一日午後二時より同村小學校に修養會の發會式を舉行したが今後は毎月一回開會する豫定であると

差押物件を競賣

縣稅の滞納處分

平縣稅務出張所では昨年より整理中の縣稅滞納者千名(金額五千餘圓)に對して此程強制執行をなし近く左の日割を以て差押物件を公賣に附すると

平裁判たより

兄三百餘名を招待した
平町立町居住日雇業相馬賢次郎内縁の妻佐藤ステ(七)が生活難から親子心中を企て白水川に長男克己(七)と長女千代(三)の二人を投げ込み自分も飛び込み自殺を計つたが水が浅い爲め果さず一人自宅に逃げ歸

平職業紹介所報告

回人を求める方
△鮮魚雜夫 二十五才 尋卒月八九圓(小名濱町某)
△商店員 二十才以下 尋卒 給料面談(平町某)
△外交員 四十才 中卒 給料面談(平町某)
△農夫 二十才前後 尋卒 給料面談(江名町某)
△職を求める方
△雜夫 三十六才 尋卒 給料面談(平町某)

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

義経の剣

【禁演上演及映畫】

悟道軒 圓玉 演
近藤 紫雲 畫

第二百六十六席 千葉 周 作

四郎兵衛 蘇生 作

藤作は萬平を其れへ打倒して
藤「野郎今こそ思ひ知つたか」

と云ひながら又打掃えた頭は碎け兩眼は飛出しイヤその死様の悲惨なる事藤作は流れの水をすくつて咽喉をうるほし

藤「親父さん喜んで下せえお前様の怨みは晴らした、何れにしても冥途へ行くだ三途の川で待つてゐて下せえ」

と津の宮の方を見て悠々云つたがやがて舟に乗り潮來をさして行かうとした時に

○「藤作待てや……」
と聲をかけて後から舟に乗つて來たは五六人
○「待て、ヤア藤作待てや……」
と呼び止めたは津の宮の年寄

○「藤作萬平は何うした野郎に出會つたか」
藤「この加茂洲に萬平はわしの來るを待つて居りました」

○「何だと野郎こゝに待つてゐたと、ウームそれでは汝を殺すつもりだな、……」

奴だ」

藤「しかしモウ萬平はわしに手向ひをする事は出來ません、御覽の通りそこに萬平は倒れて居ります」
○「エツ萬平を打殺したか」



したその天罰が忽ち報い藤作の爲めに打殺されたか、頭は碎け目玉は飛出し二目と見られねえ姿になつた、時に藤作これから後は何うする」

藤「潮來の役所に名乗つて出まして御仕置を受けます……」

○「それはむだな事だ汝は親の敵を討つたものではねえか、お役所に訴へて出れば相應のお仕置を受ける事にもなるであらう、親の敵を討つてお仕置にかゝるは馬鹿な事だ、本來ならば御

被せてその首を打切るに相違ねえ今のうちにこゝを逃げてしまへ」
藤「わしの身を思つて下さりてこゝを立退けとは有難い事でございますがわしは皆さんも知つての通り五つ父の手一つで何うやら人となつたも、それゆゑ年寄つた親父に三日たりとも樂をさせて遣りてえと一生懸命に稼いで居りました、わしが稼いでゐるのは親父に樂をさせたためその親父が死にました此上は何を目的に稼ごませう少しも早く冥途に行つて親父の介抱をしたいものでございます」

○「汝は孝行だのこんな孝行な事がありながら四郎兵衛は萬平のために打殺されるところは不運な人だ、それではお役所に訴へも出るか」
藤「ハイ御仕置を受けるでございませう」

○「何うも仕方がねえしかし親父の取り置きを済まして後に訴へて出てよよからう」
藤「イヤそのやうな餘裕はござりませぬ少しも早く訴へて出ます、何うぞ後々の事は宜敷くお願ひ申します左様ならば皆さんこれにてお別れ申します」

○「こんな孝行な事をお仕置にかけるは惜しいものだア！可愛相な事だ」
と一同涙を流した藤作は舟を漕いで潮來の岸につけて役所に自訴いたす、すると又津の宮の方から舟が來た

△「藤作は何うしたな」
と聲をかけた
年寄「藤作は萬平を殺して親父の敵を打ちお役所に訴へて出でたぞ」
○「それは飛んだ事をした……」
年寄「何が飛んだことだ」
△「親父さんは蘇生つたぞ……」
年寄「何だと四郎兵衛は息を吹つ返したと」
△「醫者どんが氣付けを張まして手當をしたが目を開いてキョロ／＼見廻し藤作は何うしたと云つた」
年寄「それは大變だモツと早く知らしてくれれば藤作を潮來の役所には遣らねえものをア惜い事をした」
△「向ふに行つて藤作を連れて來べえ」
と舟を潮來につけ追蒐けたがモウ藤作は自訴致して居るところで潮來の役人は翌日藤作より事情を聞きそこで三人打揃つて加茂洲に參つて萬平の死體を檢視致した

梅 毒

淋病 皮膚病 婦人病

松村 腸胃病 胃性

院 醫科 腸病

○七一話電

小兒科 内科

特ニ乳幼兒ノ康健相談ニ應ズ。

平町 ねずみ坂

渡邊 醫院

電話一六一番

三河産業博覽會 金牌受賞

昭和三十二年博覽會

かまぼこ 製

儀 式 用

お惣菜用 さつま揚

吉原揚 **一本孫實**

電話一四一番

磐城セメント會社特約店

久松屋商店

磐城平町五丁目 電話九番九九番

花柳科 專門

木村外科醫院

平町五丁目橋際 電話三〇九番

入院自炊の便あり